

「子どもを守り育てるための体制づくり」(追加)

梅 田 昭 博

いじめられている側から話を聞くことは、大変難しいことである。いじめる側にも同じ事が言える。つまり、される側もする側も心に傷があり、本当につらいことや悲しいことは、容易に他の人間には話せない、或いは、話さないものであると思う。自分で処理をしようとする。だから苦しむのである。それを、周りの人間が察してやらなければいけない。「やさしさ」が必要である。これは、私たちが社会生活を営む上で、とても大切なことである。

人の心の痛みを理解することや、人に対していたわりや思いやりを持つことは、人間の本来的な姿であろうか。おそらく、人間は、成長する過程で、誰かから教わったり、実体験の中から自ら学ぶことであろう。

そうであるならば、一つの方法として「音楽」を通してそれらを培ってはどうか。特に、「歌」は不思議な力を持っている。直接心の響いてきて、色々な事を感じさせ、教えてくれる。余分な音を省いた単純なメロディと正しい日本語、或いは、美しい日本語の歌詞、そして、人間の動きに合ったリズムをもった「歌」が良い。

そのような「歌」を、子ども達に教えることは「豊かな心」を育てることに繋がり、「いじめ」をなくす方法の一つと考える。

大人にとってもそのような「歌」を思い出すことは、大変重要なことである。